Hakodate Community Design Center

函館のまちづくりを考える

はこまち通信

Vol.42
2017年10月

発行／函館市地域交流まちづくりセンター

「第13回NPOまつり」「夏休み工作フェスティバル」を開催しました!ご参加ありがとうございました!

第13回「ＮＰＯまつり」の様子

夏休み工作フェスティバルの様子

ここのページをチェック!

特集 P2～3

「函館コミュニティプラザ Gクスエアの仙石さん」に施設の紹介をしていただきました！

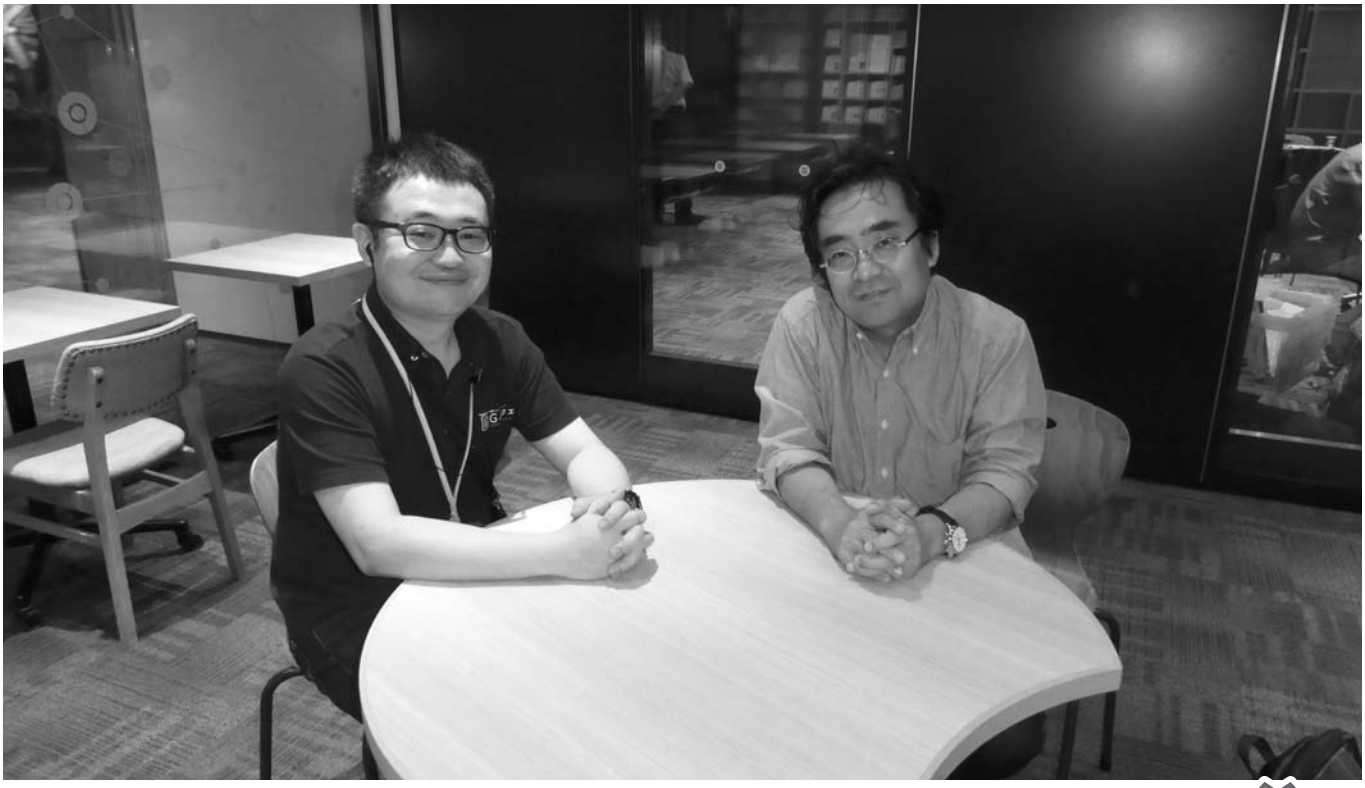
特集 P4

函館に移り住んだ
「北海道坂本龍馬記念館の期待の新星（其の弐）」
函館市地域交流まちづくりセンター10周年記念企画
「まちセン御三家に聞きました（現在編）」

今号の市民活動団体

❶ 特定非営利活動法人　ひまわり

❷ 就労継続支援Ｂ型事業所　あいりす



特集

はこまち対談

「若者の「夢」を叶えたい」

Gスクエア　センター長
仙石智義

函館市地域交流まちづくりセンター
センター長
丸藤　競

仙石智義［プロフィール］

1982年函館市生まれ。
公立はこだて未来大学卒業後、グラフィックデザインの仕事を経て29歳で函館市青年センターのセンター長に就任。本年4月より現職。NPO法人函館市青年サークル協議会事務局長も務める。

【聞き手】函館市地域交流まちづくりセンター
センター長　　丸藤　競

今回は、4月22日にシエスタハコダテ4階にオープンした、函館コミュニティプラザ Gスクエアのセンター長仙石さんに、施設の紹介をしていただきました。

対談

丸藤　オープンして半年が過ぎようとしていますが、どうでしたか？

仙石　4月22日の土曜日にオープンしましたが、今日まであっという間でした。まったく新しい施設ですし、商業ビルの中に入れさせていただいているので、多くの方との連携が必要です。前例がない中でつくりあげてきて、気がついたら半年という感じですね。

丸藤　たくさんの方に利用していただいていますね。

仙石　オープン当初はスタッフも不慣れでしたし、利用者の皆様にもずいぶんご不便をおかけしてしまったこともあります。でも、毎日たくさんの高校生をはじめとする皆様に利用していただき、力をいただいています。

丸藤　Gスクエアは、どんな施設なんですか？

仙石　函館の中心市街地活性化と若い人達の自主性を引き出す場。というのが大きな柱となっています。まずは若い人たちにふらっと入っていただけるような居場所になることで、人が集まり活気が出ます。さらに、集まった若者に、夢を叶えることができるんだよ

ということを伝えることで、自主性を引き出していく…というのを理想としています。

丸藤　夢が叶えられるということでさらに若者が集まり、集まることで叶えられる夢も多くなり、また人が集まる…という良い循環ができるといいですね。

仙石　趣味の延長としての活動の場は既にありますが、起業家などのように経済活動と結びつくような夢も支援する施設は少ないと思います。同じビルに入っている無印良品さんなどとも連携できることも、大きな要素だと思います。

丸藤　どんな方が利用してくださいますか?

仙石　午前中は買い物に来たご年配の方などが多いです。ゆっくり休んでもらったりしています。午後になると、学校帰りの高校生が中心になります。友達とおしゃべりしたり、勉強したり。自由に使っていただいています。テスト期間中などは、凄いことになってますよ(笑)だいたい毎日、600~700人くらいにご利用いただいてます。

丸藤　貸し切りのイベントでも使えるんですね。

仙石　ホールを区切って使うこともできるので、スタッフに相談してみてください。

丸藤　プロジェクトという企画がありますね。

仙石　その道のエキスパートの方に講師になっていただき、高校生などと考えていく場となっています。今は、こちらが用意した5つのプロジェクトを実施していますが、将来的には高校生や大学生側から出てきた希望に応えて新しいプロジェクトが生まれ、そこで育った若者が函館のまちづくりの中心になっていく…というような形になっていければ理想ですね。

丸藤　色んな分野で活躍してくれる人が出てくるといいですね。

仙石　まだまだこれからですが、可能性は高いと思っています。

丸藤　気軽に集まれる居場所があり、その中に夢もあるというのは素晴らしいですね。

仙石　Gスクエアのマークは扉にみたて、気軽に扉を開けて来てもらいたい。それは、夢の扉にもなっているよ、という意味を込めています。防音になっている部屋や、キッチンスペース、会議などの催し物として使う場合には予約が必要ですが、基本的にふらっと来ていただけます。無料で使える場所がたくさんありますし、まずは来ていただきたいですね。

丸藤　お洒落な空間ですからね。

仙石　落ち着いた感じですし、窓からの眺めもいいですよ。開かれた空間になっています。

丸藤　木製の素敵な棚には、絵本が置いてありますね。

仙石　地域で眠っている絵本を循環させましょうという無印良品さんの企画と連携しています。オススメスポットのコーナーも連携しています。

丸藤　若いスタッフが多いですね。

仙石　利用者の皆さまとの会話を大切にしています。コーチングなどのスキルも取り入れ、例えば高校生の可能性をのばすようなコミュニケーションをとっていきたいですね。

　存在を否定しないとか、誰もが一人の人間として必要とされているということが若い人に伝わるようにしていきたいと思っています。

丸藤　GLAYコーナーは、ファンはもちろん全国的にも有名なスポットですね。

仙石　レリーフと、からくり時計があります。毎正時には、時計の前にたくさんの方が集まりますよ。GLAYのように、ここに来ている皆さんには夢を叶えてもらいたいですね。

丸藤　未来のGスクエアを、どんな場所にしていきたいですか?

仙石　若い人たちがここを拠点にして、何かを発信していくとか、まちと一緒になにかをしたいとか、ムーブメントを起こしていきたいですね。お店や会社を設立するなどの経済活動にもつなげていきたいですし、ものづくりの応援もしたいです。

丸藤　Gスクエア発の「函館と言えば」というヒット商品が生まれるといいですね。

仙石　今の若い人達は常に社会と接していたいという気持ちが強いですし、社会に敏感でいろんなことを考えています。だから、可能性は高いと信じています。どこか他のまちに行ってしまう若者も多いとは思いますが、Gスクエアでの経験を活かして、さらに大きくなって函館に戻ってきてもらって、今度はGスクエアのエキスパートとして活躍するようになってもらえたら嬉しいですね。

丸藤　期待できますか?

仙石　もちろん。私達より、ずっと可能性を持ってますから(笑)

函館コミュニティプラザ
Gスクエア
HAKODATE COMMUNITY PLAZA G SQUARE

函館コミュニティプラザ(愛称:Gスクエア)
函館市本町24番1号　シエスタハコダテ4階
開館時間:9時30分～21時30分　休館日:1月1日
http://g-sq.jp/
お問い合わせ
電話:0138-35-4000　E-Mail:info@g-sq.jp

移住サポートセンターより

函館に移住された方をご紹介します。

函館に移り住んだ「北海道坂本龍馬記念館の期待の新星（パートⅡ）」

■龍馬一族と北海道

「坂本龍馬って、北海道に来たんですか？」

記念館で受ける、最も多い質問だ。

結論を言えば、龍馬は北海道に来ていない。では、なぜ北海道に龍馬記念館なのか？

たしかに龍馬は北海道に来られなかったが、龍馬一族として見てみると、北海道とのつながりは極めて強い。龍馬が暗殺され、蝦夷地への夢が絶たれてしまった後、その遺志は子孫に受け継がれることになったからだ。

まず龍馬の甥にあたる高松太郎が、龍馬の死から6か月後に、明治新政府の役人として函館に渡っている。そして彼は、龍馬の蝦夷地開拓計画を新政府に提言する。その計画はやがて、屯田兵制度として採り入れられていく。

またもう一人の甥、坂本直寛は、明治31年に一族を引き連れて、北海道に開拓民として入植している。自由民権運動にも加わっていた彼は、龍馬の夢を追って、北海道の開拓に乗り出したのだ。

こうして、龍馬一族と北海道のつながりは、深いものになっていく。そして今も、坂本家の本家は札幌に存在する。

■蝦夷地に懸けた夢

では、これが北海道に坂本龍馬記念館を建てた理由かというと、それだけでは足りない。一番の理由は、龍馬が描いていた大きな夢にある。

龍馬が生きた幕末動乱期、たくさんの志士たちが戦いのなかで斃（たお）れていった。龍馬はこれ以上、内乱によりたくさんの血を流すことで、国を疲弊させてはいけない、と常に考えていた。日本を狙う外国の思うつぼになってしまうからだ。

そこで龍馬は、蝦夷地開拓計画を思いつく。争い合う志士たちの目を蝦夷地に向けさせ、その開拓とともに北の脅威（ロシア）からの防衛にあたらせようとしたのだ。

この計画を、龍馬は一貫として持ち続け、その実現に向けて奔走していた。いろいろな資料を検証し、当時の状況から推測すると、彼が蝦夷への渡航を実行に移そうとしたのは、実に5回に上るとみられる。その間、様々な事件や事故、トラブルに巻き込まれながら、彼の想いが揺らぐことはなかった。

そして龍馬は、蝦夷地の先に世界を見ていた。彼が組織した海援隊で、世界に打って出る気概も持っていたのだ。外国との交易によって利潤を得、それを国防に注ぎ込むことまで考えていた。

「役人は、性に合わん。世界の海援隊でも、やろうかのう。」西郷隆盛に問われたとき、龍馬が答えた言葉に彼の想いが込められている。

無駄な血を流すことなく、開拓と防衛に力を注ぐ。これは、倒幕の志士たちはもちろんのこと、函館の英雄・土方歳三を含む幕府側の武士たちさえも救おうという、大きなものだった。

■想いを受け継ぐ

国力を高めながら、外国から日本を守ろうという、この計画こそが龍馬のまさに真骨頂といえるだろう。

だが龍馬は、戦いを回避さえすればよい、と考えていたわけではない。出来得る限りの行動をして、それでもどうにもならない時には、力を行使せざるを得ないことも覚悟していた。大政奉還の直前、後藤象二郎に宛てた檄文（げきぶん）に、それが表れている。

『大政奉還が成功しないときは、海援隊を率い、慶喜を討ち取る覚悟です。その時は、地下でお会い致しましょう。』

命を懸けた、ギリギリの行動を重ねていたことが窺える。そうさせたのは、“何としてもこの日本を守りたい、守るのだ”という強い願い・信念が龍馬に流れていたからに他ならない、と思う。

たらればの話になってしまうが、もし彼が暗殺されていなかったら、多くの志士たちと共に、必ず北海道に渡っていたはずだ。そして、最初に足を踏み入れた土地は、開港に沸くこの函館であったことは、まず間違いない。

龍馬がもっていた、これほどまでの計画、これほどまでに強い意志を多くの人たち、特に北海道の、そして函館の人たちに知ってもらいたい。

北海道坂本龍馬記念館は、そんな想いの上にある。

龍馬像の前で五稜郭祭出陣式～
学生たちと、筆者。（前列右側）

毎年11月、記念館では坂本龍馬蝦夷地上陸祈念祭を行ない、彼が果たせなかった蝦夷地に懸けた夢を、心から祈っている。彼の願いが、今の北海道に、そして日本に届くように。

柳田　善徳

気がつけば函館市民になっていた。 Vol.18

観光都市のキャリーバッグ

驚きの旅の荷物

旅行で函館に来ていたころと比べて、市電を利用する機会が減っていたのですが、この夏はよく乗りました。つくづく驚いたのは、外国人観光客の姿が増えたことです。先日も、大きなキャリーバッグを持った中国系の若い男女を見かけました。函館駅前電停で降りようとしています。

まず男性の方が2つのキャリーバッグを重そうに提げて下車しました。その間に女性は運賃を料金箱に入れています。なるほど役割分担か、などと思って眺めていますと、降りたはずの男性がまた車内に戻ってきます。そしてもう1つ、女性の後ろにあった大きなキャリーバッグを下ろし始めました。

何と2人で3つも大きなキャリーバッグを引きずって旅行しているのです。その翌日、当社の本を置いてもらっているホテルに納品に行った際、支配人にこの話をしたところ、「そんなの当たり前ですよ」と軽く返されました。それもまた驚きでしたが、ホテルの支配人が言うのですから間違いありません。

キャリーバッグに思う

大きなキャリーバッグで旅するのは外国人観光客に限ったことではありません。私が旅行で函館に来ていた7、8年前ころからでしょうか、駅や空港で、大きなキャリーバッグを引いて歩く日本人の姿をよく見かけるようになりました。以前はキャリーバッグなど、海外旅行にしか使わなかったと思います。

当時の私は別の仕事をしていましたが、よく一緒に出張に行った得意先の若い人なども、キャリーバッグ愛用者の1人でした。確かにたくさん荷物が入り、引きずって歩けるキャリーバッグは便利です。しかし以前は旅行にせよ出張にせよ、極力荷物を切り詰めて、身軽で行動しやすくしていたはずです。

それがなぜ変わったか。ビジネスにおいては、パソコンがなければ仕事にならない、という時代になったことが大きいように思います。パソコンも小型軽量になったとはいえ、着替えや書類などと一緒にショルダーバッグに詰めると、肩に掛けたり持ったりするのが苦痛になります。

それともう一つ、昔と違って何でも便利が当たり前の時代。旅先でも日常生活と同レベルの「便利」を求めるようになった、というのもあるでしょう。今の若い人は海外旅行に行っても、まず立ち寄るのは日系のコンビニだ、という話がそれを端的に物語っています。

キャリーバッグなら、たくさん入る。これ幸いと、日常使っている身の回り品をつい詰め込む。鶏が先か卵が先か、ではありませんが、キャリーバッグと、旅先でも日常を求める気持ちが二人三脚で、旅の荷物を大きくしているように思います。ましてや海外旅行なら、土産を詰め込むスペースも必要です。

京都では由々しき問題に

京都では、観光客の大型バッグが市バスの混雑の原因となり、その結果、ダイヤの乱れも生じています。市の交通局では、バスに大きなバッグを持ち込まないよう、観光客にコインロッカーや荷物運送サービスの利用を呼びかけているようですが、強制することもできないため、なかなか埒が明かないようです。

函館も明日はわが身。そうなればどうすればいいのでしょう。さしあたっては市電の本数を増やすことでしょうか。ならば、逆に市民にもプラスになります。観光客向けの荷物運送サービスも出てきていますが、もっと普及すれば、新たな雇用も生まれます。もちろん、言うはやすしではありますが、マイナスをプラスに転じるような名案を、そろそろ考えなくてはいけないようです。

荷物の巨大化は止められない?

★プロフィール★

大西（おおにし） 剛（つよし）さん

1959年生まれ、大阪出身。2011年秋より函館に移住し、「新函館ライブラリ」を設立。通り一遍の観光客ではなく、コアな函館ファンに訴えるような函館本の出版に取り組む。本年は、スマホに頼らず函館情報を携帯できるよう、既刊の本格的函館案内書『市電でめぐる函館100選』を分冊・豆本化。

NPO・市民活動団体紹介のページ

特定非営利活動法人　ひまわり

■どんな団体？

私どもは、精神、知的、身体に障がいのある方を対象に、一般企業就労が難しい方、離職された方、仕事をすることで社会的自立を目視したい方へ、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う事業を行っております。

当NPOに関わるすべての人が、「ひまわり」の花のようにおおらかに笑顔で毎日を過ごせるよう、誠心誠意取り組んでいます。

編みぐるみ作品たち

■団体のPR

当団体は平成22年に設立され、函館市、乙部町、黒松内町にて就労継続支援B型事業所を運営しております。函館市内では2つ事業所があります。ひまわり函館B―1ではPCを使用した基本・応用操作の訓練、名刺・年賀状・冊子・チラシ・ポスターの製作・印刷、編みぐるみの製作、花壇整備・清掃作業等を行っております。ひまわり函館B―2では厨房補助・清掃と手芸品作成を行っております。両事業所ともひまわり函館B―2で調理したお弁当（400円～）の注文が可能です。

また、事業所では定期的にレクリエーションを行っております。最近では函館公園でジンギスカンを食べながらのお花見や、工場見学等を行っています。

つながる、
つなげる

■会員募集など

見学等は随時受け付けていますので、まずはお気軽にお問い合わせ下さい。

見学後、当事業所の利用を希望する場合は、市役所等で障害福祉サービスの手続きが必要です。

一緒に「買ってもらう」から「買わずにはいられないもの」を合言葉に作品づくりしてみませんか？

■これからの活動

各種イベント等で製作した商品を販売していく予定です。ひまわり函館B―2では常時製作した商品を販売していますので、ぜひお越しください。

2年連続NPOまつり参加!!

特定非営利活動法人　ひまわり

■代表者名／倉持 篤　■事務局名／坂井 太郎
■電話／0138-83-5323　■ FAX／0138-83-5323　■メール himawari-jimu@hakodate.fm
■ホームページ　http://www.hakodate.fm/himawari/

NPO・市民活動団体紹介のページ

就労継続支援B型事業所　あいりす

■どんな団体？

障がいをお持ちの方や、就労が難しい方と一緒に作業を行っています。また、パソコンの練習を取り入れ資格取得を目指しています。

事業所の外観

パソコンの練習スペース

手工芸の制作スペース

■団体のPR

湯の川温泉街の中にあり、松倉川岸の散歩道に面した陽当りの良い事業所です。所内ではパソコンの練習と手工芸品作りを中心に行っています。パソコンでは日商検定3級（ワード・エクセル）の取得に向けて練習を行い、就労に繋げることが出来るようにサポートしています。手工芸は興味がある物の制作から始め、商品化し販売しています。NPOまつりでは、切り絵・アイロンビーズ・ワイヤーアートなどを販売させていただきました。

■会員募集

所内を見学後に希望があれば体験実習を受け付けています。見学、体験については月曜日から金曜日の13：00～14：00の間で行っています。お気軽にお問い合わせ下さい。

興味のあることから始めてみよう♪

■これからの活動

作品の販売と季節ごとのレクリエーションを予定しています。8月のレクリエーションでは、金森倉庫内を見学し、焼肉屋さんで食事会を開催しました。今後も皆さんの意見を取り入れながら行っていきたいと思います。

切り絵・編み物作品

ワードアート・ビーズ作品

就労継続支援B型事業所　あいりす

■管理者／佐藤 大輔　■事務局長／久保田 豊滋　■会員数／20名
■電話／0138-36-5558　FAX／0138-86-7353
■ホームページ　http://iris-hakodate.com

NPOワンポイントアドバイス!!

**皆さんの組織でも、「会議」はよく行われると思います。
しかし、そもそも、今行われている会議が何のための会議かを理解していないと、
効果的な会議にはなりません。そこで、今回からは、会議のタイプ別にアドバイスをしていきます。
まずはじめは、そもそも、会議にはどんなタイプがあるのか・・・について整理してみます。**

1. 顔合わせ会議
団体やプロジェクトを始めようとする時、まず最初に行う会議です。

2. 定義を決める会議
組織やプロジェクトの重要な概念や、定義、組織名、目標などを決めるための会議です。

3. アイデアを出す会議
プロジェクトを開始する場合など、良い企画をつくるためにまず行う会議です。

4. アイデアを整理する会議
出したアイデアを整理し、精査し、実現可能な企画に組み立てるための会議です。

5. AかBかを選ぶ会議
複数の中からベストなものを選ぶための会議です。

6. 企画会議
活動のプログラムなど、具体的な企画をつくりあげていく会議です。

7. 進捗を報告・伝達する会議
関わるメンバー同士の情報共有を確実にするための会議です。

8. 問題解決のための会議
組織内部等に発生した問題や課題、組織へのクレームなどに対応する会議です。

9. ルールを決める会議
組織立ち上げの時や新たな事業やプロジェクトを行う時に必要になります。

10. ふりかえり・評価の会議
個人攻撃ではなく、改善して次に活かすための反省と評価を行う会議です。

次回からは、タイプ別に効果的な会議のしかたについて詳しくアドバイスしていきます。
参考:青木将幸著『市民会議術　ミーティング・ファシリテーション入門』ハンズオン埼玉出版部

センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤　競

先日、テレビなどでも有名な茂木健一郎さんの講演を聞くことができました。脳科学者の立場からみた認知症の話は、とても興味深く分かりやすいものでした。

現在、認知症の進行を決定的に止めたり治したりする薬はありません。だからこそ、認知症にならないようにするための予防が大切です。予防に効果があるのは、運動と好奇心と言われています。週に3回以上、30分以上の運動をしているといいそうです。好奇心でいうと、初めてのことをすることで普段使っていない脳の部分を使い、効果が出ると言われています。

東京都健康長寿医療センターの調べによると、毎日外出している人に比べ、週に1回以下しか外出しない人は認知症の発生リスクが3.49倍にもなるのだとか。

いつもとは違う道を歩いて帰ってみる。色んな人と話しをしてみる。イベントや、新しいお店などに行ってみる。運動と好奇心の両方を満たす機会はたくさんあります。中でも、一番効果的なのは何かの活動に参加してみることです。

茂木さんによると、これからは人工知能の時代になるので、今までのようなペーパーテストの点数が高いことは必要なくなります。それに代わり、自分で問題をみつけられる人が大事になってくるそうです。

この自ら問題を見つけられる力は、様々なNPO活動でも求められます。みなさん、認知症予防のためにも、興味のある活動をみつけてぜひ参加してみませんか?

▲ミニミニクッション

▲新作も登場!絵ハガキ

福祉の店 どんぐり2号店
（まちづくりセンター1階）

全国的に見ますと天候不順が続き、記録的な暑い日が続いたと思えば、集中的な豪雨が有って大きな被害が出ています。人命に係る被害が続いていることに、お悔やみを申し上げます。

昨年の同時期に発行された「通信」でも触れましたが、神奈川県で発生した障がい者施設での殺傷事件は、世界中に衝撃を与え、犯罪の原因や加害者の背景にあるものを解明するよう求める方は多くいましたが、加害者の心理状況を最近報道されるたびにいたたまれない思いをしている方は多いと思います。このようなことが起きないようにと、虐待防止法や差別解消法が施行されましたが、障がい者・高齢者・児童等に対する虐待が減少されていないのは人間として悲しく思います。

人権を尊重しあえる社会をつくるために、努力をしあいましょう。

■営業時間／10:00～16:00
■定休日／土・日曜日・祝日

製品は、函館市総合福祉センター1階・函館市役所地下売店でも販売しています。

8月にストーブ点けた、というくらい肌寒かった今年の夏。7月が暑すぎたのかな。
さてさて秋はどんなふうかしら。台風あまり来ませんように。

◆シロップミルクティー
秋風が吹き始めるととたんにオーダーが増えるのが、チャイとメイプルミルクティー。
カナダ産のメイプルシロップを加えたミルクティーは、やさしい甘さで私も大好きです。

この秋から、新しい味が仲間入り。
七飯町のconeruさんのシロップをお取り扱いさせていただくことになりました。エルダーフラワーとエキナセア、どちらもミルクティーによく合います。これまで通りメイプルもお選びいただけます。選べるミルクティー、あなたはどれにしますか?

coneruのシロップは、瓶入りのものを販売もいたします。
おうちでも飲み物に入れたりパンケーキにかけたり、楽しんでくださいね。

◆豆を煮る
お豆を炊くのが好きです。小豆、黒豆、花豆にくらかけ豆なども。
お鍋をのせられるストーブがあればもっと手軽にできるのですが、わが家の暖房はファンヒーターでそれもかなわず。夕食後にコトコト煮たり、たまにはシャトルシェフでほったらかし調理したり。

最近なぜか無性に「おしるこ」が食べたくて、ときどき小豆を煮ています。気まぐれにカフェのメニューに登場するかも?おしるこに入れるのは、団子ではなく断然お餅派です。

◆読書の秋ですね
しばらくの間在庫がなかった「花しるべ 夏～秋篇（藤島 斉著）」が入荷しました。
この本を片手に函館山歩き。暑すぎず寒くもなく、山歩きには格好の季節ですね。

他にも函館のまち歩きを興味深いものにしてくれる本がいろいろ揃っています。

「函館100選豆本シリーズ1～3」大西 剛著
「はこだてピースマップ」YWCAピースプランニング委員会篇　など。

cafe DripDrop★米田尚子

cafe DripDrop
カフェ ドリップドロップ

見本誌もご用意しておりますので、スタッフにお申し付けください。

■営業時間／10:00～18:00
■定 休 日／水曜日

ホームページ　http://handpick.cafe.coocan.jp/

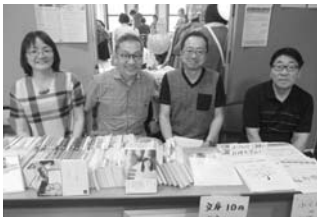
まちセンからのお知らせ

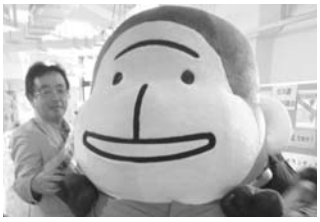
第13回 NPOまつりを開催しました!!

7月30日（日）、函館市地域交流まちづくりセンターを会場に「第13回 NPOまつり」を開催しました。NPOまつりは、函館近郊の市民活動団体が一堂に会し、日頃の活動を紹介する年に一度のおまつりです。

各団体の活気ある声が館内や駐車場での特設ステージで響き、各所で交流する方々の姿が見られました。初めて参加した団体や長年参加している団体にとっても、活動を知ってもらう機会となったのではないでしょうか。

今年も昨年に続き、「NPOまつり」と「夏休み工作フェスティバル」を同時に開催し、たくさんのお客様にご来館いただきました。
来年は、より魅力的なまつりになるよう、スタッフ一同尽力していきます。どうぞよろしくお願いします!





まちセンからのお知らせ

まちセン 2017.7.30

夏休み工作フェスティバル

全7講座を開催しました!

木工クラフト（きしゃ）

毛糸で小物
（カップケーキとアイス）

パステル和（NAGOMI）アート

レザークラフト体験

木のスプーンのオリジナルデザイン

手回しオルガンKINO

タイルクラフト

デコ・お菓子の小箱

独立行政法人国際協力機構（JICA）では、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国からの研修員受入、草の根技術協力事業などを行っております。JICA北海道では、道内の教育機関をはじめ、NGO等各種団体、地方自治体のパートナーリストを作成し、将来的な連携を模索しております。JICA事業、国際協力にご興味、ご関心のある方は、是非お問い合わせください。

さまざまな取り組みで、北海道と世界をつなぎます。

JICA北海道　5つの事業案内

01 研修員受入 北海道の「知」と「技」、世界へ。 年間で約1,000名受け入れ		アフリカ、アジア、中南米など約100ケ国の国づくりを担う方々に、地域開発や保健医療、教育といった北海道が持つ知識・技術を伝えています。1995年～2017年3月末までに14,204名を受け入れました。
02 ボランティア派遣 道産子の力が、途上国の力に。 累計で約2,600名派遣（2017年6月末現在 ※短期含む）		「青年海外協力隊」「シニア海外ボランティア」などの派遣を行っています。途上国の課題に取り組むために必要な知識、経験を持つ道産子を派遣しています。
03 開発教育支援 世界の「いま」を見る・知る・学ぶ。 出前講座・センター訪問など112件（2016年度）		出前講座やセンター訪問、研修員の学校訪問などを実施。途上国の生活の現状や活動内容などを児童、生徒、学生たちに伝えています。年間6,492名（2016年度）が参加しています。その他、一般向け・教育向けプログラムもあります。
04 草の根技術協力 海外で活きる、北海道の経験。 モンゴル・ウガンダ・パラグアイなど12件実施中（2017年7月現在）		北海道の自治体やNGO,大学が行っている途上国への支援活動をサポートしています。途上国における生活改善・生計向上などに貢献しています。
05 中小企業支援 地元企業の海外展開を。 採択23件（2017年7月現在）		北海道の企業の相談窓口を設置。北海道内の製品・技術を途上国の課題解決に役立て、また普及させるための調査など、海外進出に向けたさまざまなサポートを行っています。

【お問合せ】:JICA北海道（札幌）市民参加協力課
【住所】:札幌市白石区本通16丁目南4-25
【電話】:011-866-8421　【FAX】:011-866-8382
【代表email】:hkictpp@jica.go.jp

【まちづくりセンター10周年企画】まちセン御三家に聞きました！

函館とともに歩んできた函館市地域交流まちづくりセンター。2007年4月開館以来、多くの方に支えられ、おかげさまで10周年を迎えることができました。

10周年を記念する企画として、函館の市民活動とまちづくりセンターにスポットをあて、3編構成にて、みなさんにご案内します。10年を振り返る過去編（前号）、函館の今、現在編、これからの函館、未来編（次号）を予定しています。

開館以来、10年まちづくりセンターを支えてきたスタッフ3人（丸藤競（センター長・写真中央）、横内輝美（左）、澤田石久巳（右）に、聞きました。

まちづくりセンターは日々変わる？

丸藤　まちづくりセンターの機能として、当初と違うのは、移住の支援がはいってきたことと、福祉や介護予防とつながってきたこと。

オープンしたころは、観光情報や観光案内は想定していました。移住や福祉、介護予防、防災などは、予測してなかったけど、現在は、活動の大きな柱になってますね。

澤田石　現代にあった部分でもって、基本はそのままあるんだけれども、今現在どういうものが必要かということにそって、今動いているよね。福祉や移住、防災は、まちづくりの中には、かかせないものですね。

横内　センターの利用の仕方も変わってきました。特に1階フロアの使われ方がね。

丸藤　1階で開催している水曜マルシェは、定着してきて、常連さんもできました。本来喫茶が休みの時に、どのようにして、活気を出すか？ということでスタートしました。水曜マルシェを始めたころは、市内であまりなかったのが、あっちこっちで広がって、まちセンで出店してる人がほかでも出店して、地域に広がっていったというのは、すごくうれしいことですね。

澤田石　今でこそ当たり前になってきましたが、W・i・f・iを館内で自由に使えるというのも早かったですね。

横内　ホテルとここぐらいのもので。

丸藤　そういう意味では時代の流れに、結構応じてきてますね。

澤田石　積み重なったものが、時代にあって、福祉など、まちづくりと一緒になって裾野が広がっていく。時代の流れとともに、どんなことがでてくるかわかんないから常にアンテナ伸ばしてなきゃだめだな。

横内　裾野を広げる手だてみたいのがここでつかめている。ここにくることで、情報を得ている。そういった意味では、情報源となっているんだよね。なにかある？と訪ねてくる方やなにかしたい！という方も訪ねてきますね。

丸藤　マスコミの人もネタがないときにね。そういう意味では、ここにくれば何か面白い情報があるかもしれないと。いろんな情報を発信してきたからかな。

横内　市民活動団体の人たちがここに出入りしていて、そういう人たちとも触れ合えるというのが、いいところなんですかね。

きっかけづくり？

澤田石　発想が違うんだよね。させないことにしよう、これはこれでさせませんよ、といえばそれでおしまい、規則になってしまうから。そうでなくて、うちの場合はそれをするためにはどうしたらいいかということをみんなで考えながら進めていってる。そういうところがみなさんにうけたのかな。

横内　福祉の店どんぐり2は、当初なかった。福祉の事業所の人たちとつながりをもてたら、といってね。3年目（2010年2月）にできたね。

丸藤　店を出したいね、という最初の話し合いから1年以上かかりました。時間はかかったけど、できてよかったですよね。

横内　商品が売れるので、各施設の励みになっている。ここにきて、働きにでた子がいる。今度、就職することになりました、ってあいさつしてきてね。

澤田石　自分自身がここにくることで一般の人たちと接することが励みになって、俺もできるかなっていう感じになって、社会復帰のきっかけとなったんだね。自分で作った商品を販売するという実践の場があり、完全に開けましたね。

10年前の自分から現在の自分にひと言

・いろんな出会いがたくさんあって楽しそうですね。（丸藤）

・地域の人たちの活動にサポートできてるかなぁ？（横内）

・今日から伝統をつくりあげていく！（澤田石）

次号では、未来編を掲載予定です。お楽しみに。

あとがき

この10年、まちづくりセンターの役割が変化してきています。その都度、対応してきました。どうすれば、対応できるか今後もみんなで考えていきたいです。（聞き手　谷口真貴）

■施設利用料金

税込（円）

階	会場名	面積	参考レイアウト		基本料金	
		m²	形	席数	単価	金額
2階	多目的ホール	272	シアター	約100	1日あたり	**10,000円**
			スクール	約60		
	研修室A・B	50	シアター	約50	1時間あたり	**500円**
			スクール	約30		
	研修室C	24	シアター	約30	1時間あたり	**500円**
			スクール	約20		
3階	会議室A・B	50	シアター	約50	1時間あたり	**300円**（一般利用500円）
			スクール	約30		
	会議室C	24	シアター	約30	1時間あたり	**300円**（一般利用500円）
			スクール	約20		

※会場には、テーブル、イス、ホワイトボード、空調設備を備えています。※駐車場／2時間無料、超過30分までごとに100円
※営利目的（入場料を徴収したり、物品を販売するなど）で使用する場合は、割増料金となります。

■備品利用料金

備品名	利用料金
音響機材（研修室・会議室用）	**1,000円**
音響機材（多目的ホール）	**2,000円**
プロジェクター	**1,000円**
スクリーン	**500円**

※その他、設備等については、ご相談ください。

■活動支援費 要相談 1,000円

■印刷機使用料金 ※用紙代別

① 製版代／1枚……**100円**
② 印刷枚数／10枚まで……**10円**
（以後10枚毎に10円加算となります。）

※例）12枚／20円、137枚／140円、1543枚／1,550円です。
※① 製版代＋② 印刷枚数が必要です。
※印刷用紙は各自でご用意ください。また、小銭のご用意をお願いします。

■コピー料金

① 白黒／A4・B4・A3……1枚 **10円**
② カラー／A4・B4……1枚 **50円**
③ カラー／A3……1枚 **100円**

■横断幕プリント／ポスタープリント料金 ※用紙代含む

① 610mm×1.5m……1枚 **2,400円**
② 610mm×3.0m……1枚 **2,600円**
③ 610mm×4.0m……1枚 **2,900円**
④ 610mm×5.0m……1枚 **3,200円**
⑤ A2版（420mm×594mm）1枚 **1,200円**
⑥ A1版（594mm×841mm）1枚 **1,400円**

※横断幕は文字原稿、ポスターはチラシ又はPDF形式で原稿をお持ちください。

■【各施設の使用申し込みについて】

●利用日時、利用目的をご確認のうえ、TEL.0138-22-9700、または、函館市公共施設予約システムよりお申し込みください。
https://yoyaku.e-harp.jp/hakodate/

【お問い合せ】

函館市地域交流まちづくりセンター

〒040-0053 北海道函館市末広町4-19
TEL.**0138-22-9700** 開館時間 AM9:00～PM9:00
FAX.**0138-22-9800** 休館日 年末年始（12/31～1/3）※器材点検のため月1回程度臨時休館する場合があります。

ホームページ **http://hakomachi.com/** 函館 まちセン 検索

【指定管理者】NPOサポートはこだてグループ